



三井化学株式会社 経営概況説明会

2009年5月12日

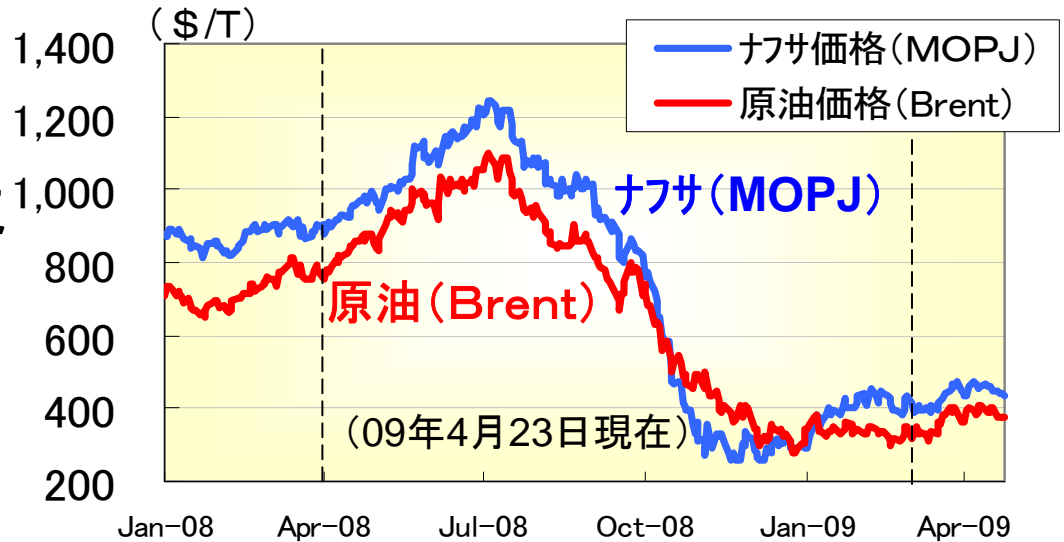
社長 藤吉 建二

目 次

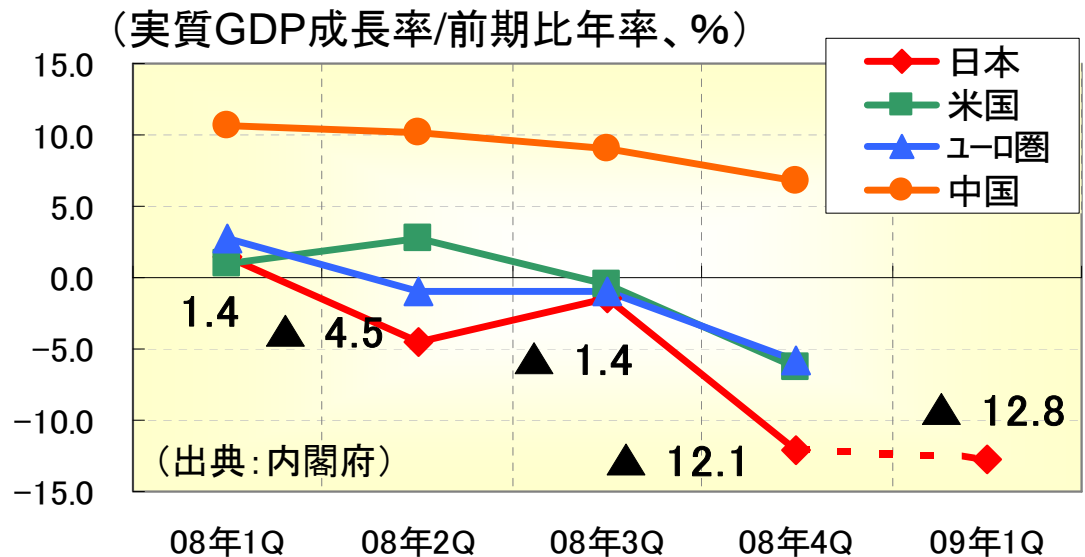
1. 外部環境(08レビュー、09予測)
2. 2008年度決算
3. 2009年度業績予想
4. 緊急対策

2008年度 事業環境レビュー (1/2)

- ◆ 原油・ナフサ価格：
 - 高騰から一転急落



- ◆ 各国GDP成長率：
 - 各国とも成長鈍化
 - 日本が特に悪い

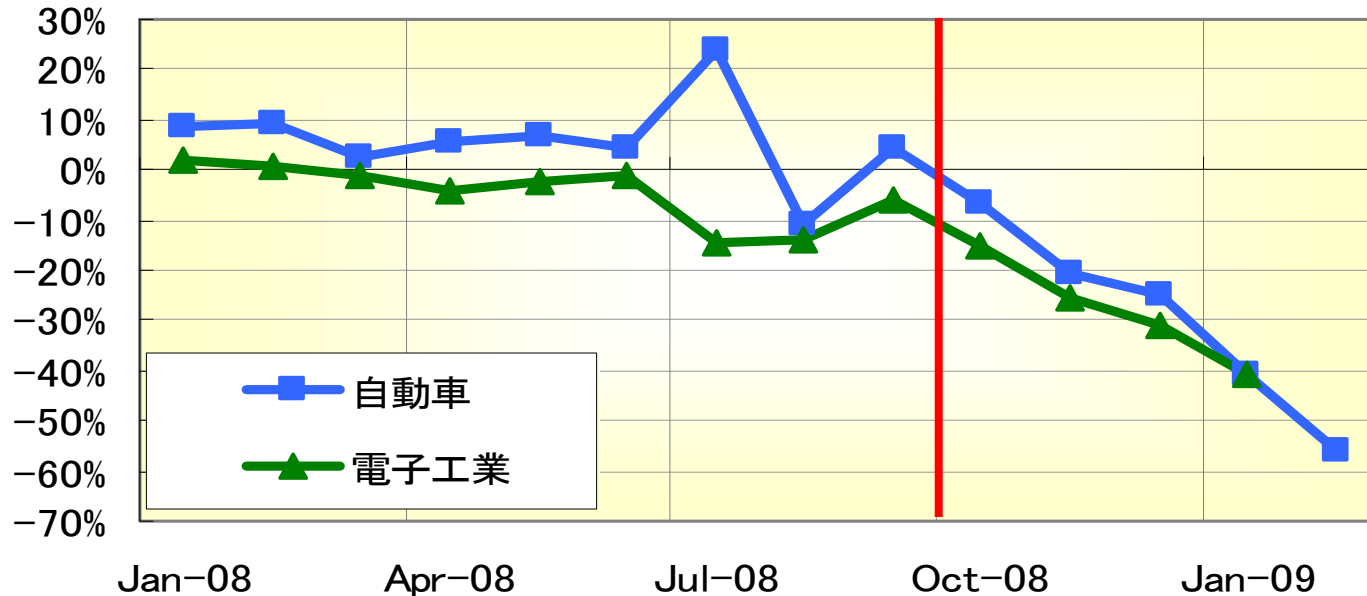


2008年度 事業環境レビュー (2/2)

◆ 自動車、情報電子:

- 急速な需要減退⇒08下期 大幅な生産減

(対前年増減率) 日本の自動車、電子工業生産台数(月別)



[当社への影響]

(出典: 日本自動車工業会、電子情報技術産業協会)

- ナフサ高騰時: 価格転嫁不十分
 - 経済危機突入後: 大幅需要減
- } 収益を圧迫

2009年度 事業環境予測 (1/3)

◆ 09年の各国GDP成長率見込み:

(出典:IMF 2009.4.8)

国・地域	08年	09年	10年
アジア (※)	7.8%	5.5%	6.9%
世界	3.2%	△1.0~△0.5%	1.5~2.5%
日本	△0.7%	△5.8%	△0.2%
米国	1.1%	△2.6%	0.2%
ユーロ圏	0.9%	△3.2%	0.1%
中国	9.0%	6.7%	8.0%

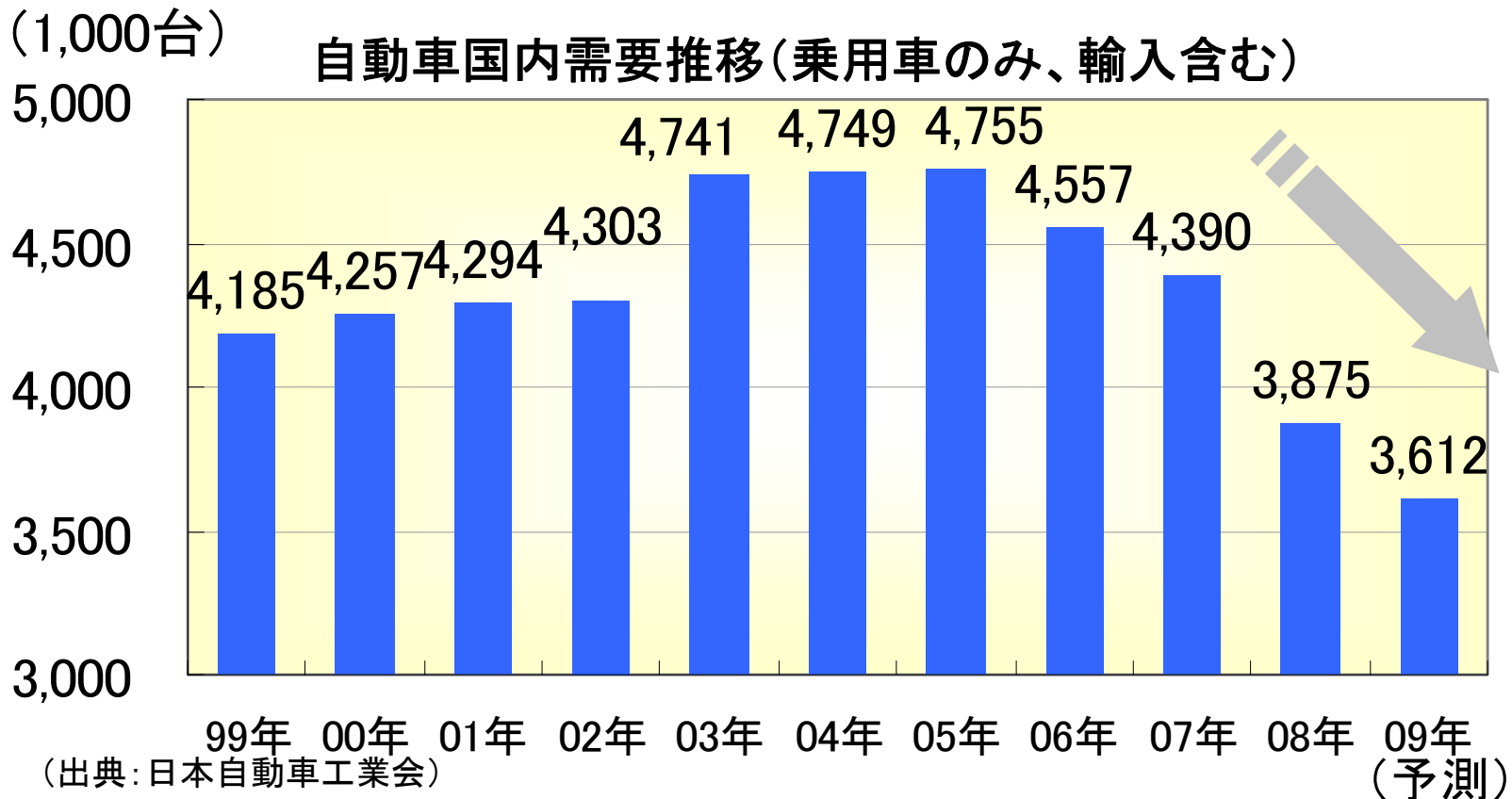
※ 除く 日・韓・台、香港、シンガポール

- 世界では、09年を底に回復基調
- 先進国の回復は遅れるが、アジアは早期回復

2009年度 事業環境予測 (2/3)

◆ 国内市場

・ 自動車業界(国内): 縮小傾向



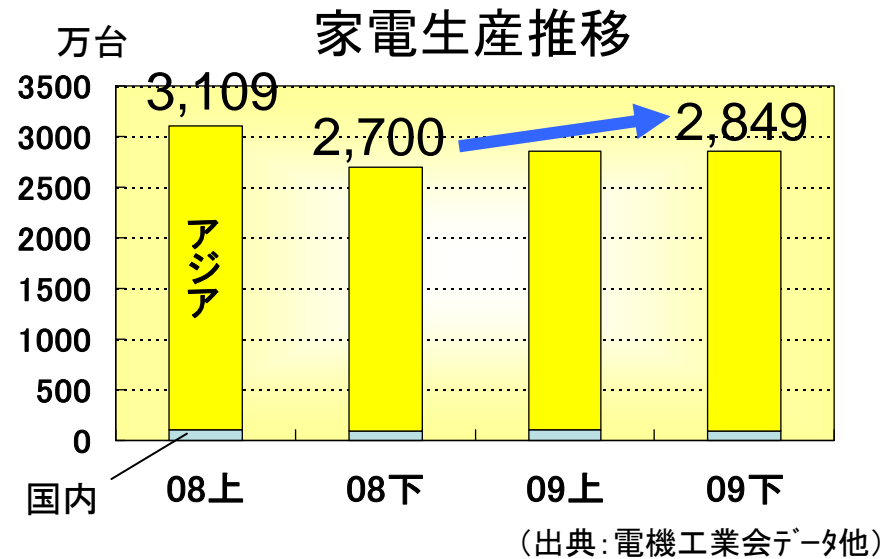
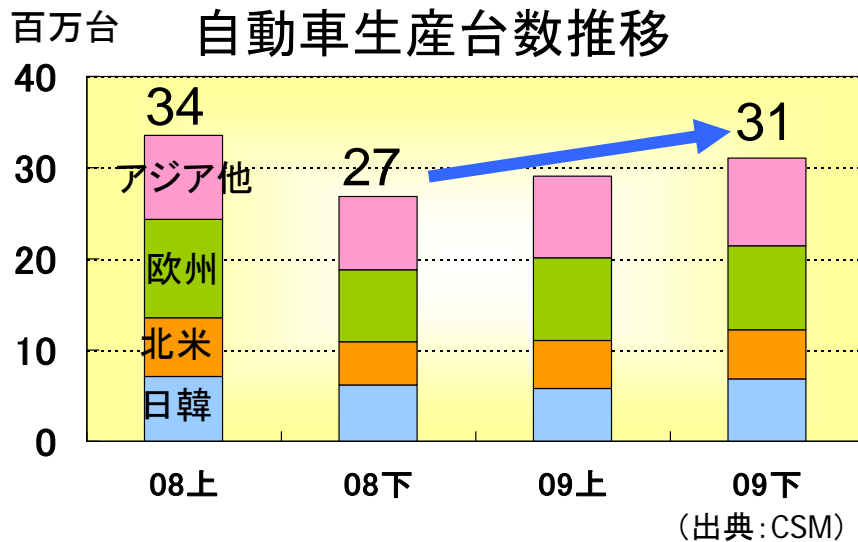
国内市場: 市場縮小により競争激化

2009年度 事業環境予測 (3/3)

◆ 海外市場

・ 自動車、家電業界(海外)

: 中国を中心にアジア市場は成長継続



- 海外市場: アジアは成長継続 ⇒ アジアが主戦場
- 09下期には、08上期に近いレベルまで回復

目 次

1. 外部環境（08レビュー、09予測）
- 2. 2008年度決算**
3. 2009年度業績予想
4. 緊急対策

2008年度 営業利益(事業本部別)

[対07年度]

(単位:億円)

セグメント	07年度 決算	08年度 決算	増減	増減内訳			
				数量差	交易条件	固定費他	内訳
機能材料	359	△ 160	△ 519	△ 274	△ 132	△ 113	ウレタン
先端化学品	108	73	△ 35	△ 5	△ 10	△ 20	-
基礎化学品	334	△ 320	△ 654	△ 465	△ 160	△ 29	PO、PH、 PTA
その他	△ 29	△ 48	△ 19	△ 20	△ 15	16	
合計	772	△ 455	△ 1,227	△ 764	△ 317	△ 146	

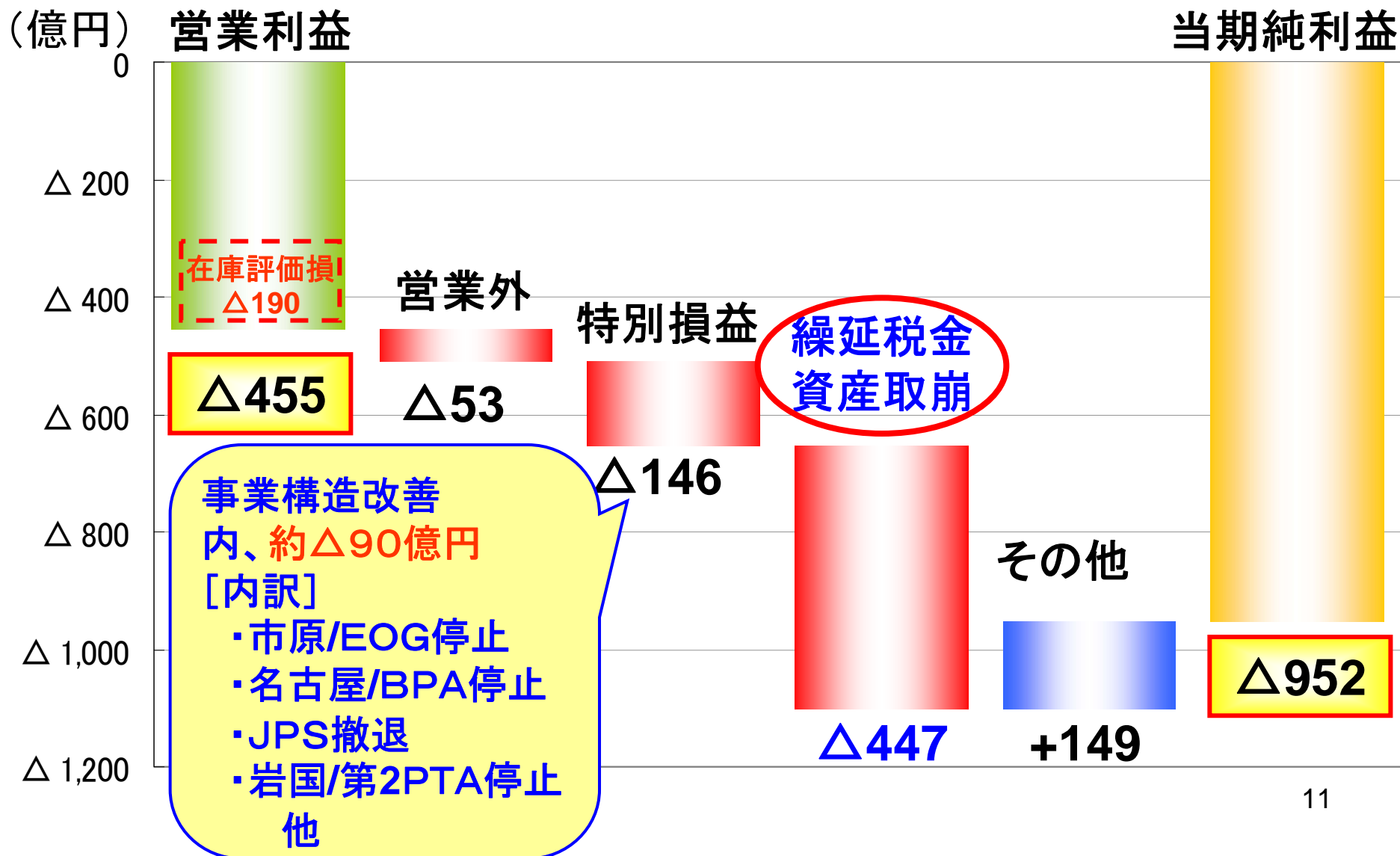
2008年度 営業利益(事業本部別)

[対 1月30日公表値]

(単位:億円)

セグメント	1月30日 発表値	08年度 決算	増減	増減内訳			
				数量差	交易条件	固定費他	内訳
機能材料	△ 60	△ 160	△ 100	△ 34	△ 57	△ 9	ウレタン
先端化学品	80	73	△ 7	△ 7	△ 4	4	-
基礎化学品	△ 210	△ 320	△ 110	△ 57	△ 63	10	PO、PH
その他	△ 60	△ 48	12			12	
合計	△ 250	△ 455	△ 205	△ 98	△ 124	17	

2008年度 当期純利益要因分析



目 次

1. 外部環境（08レビュー、09予測）
2. 2008年度決算
3. **2009年度業績予想**
4. 緊急対策

09年度営業利益予想(事業本部別)

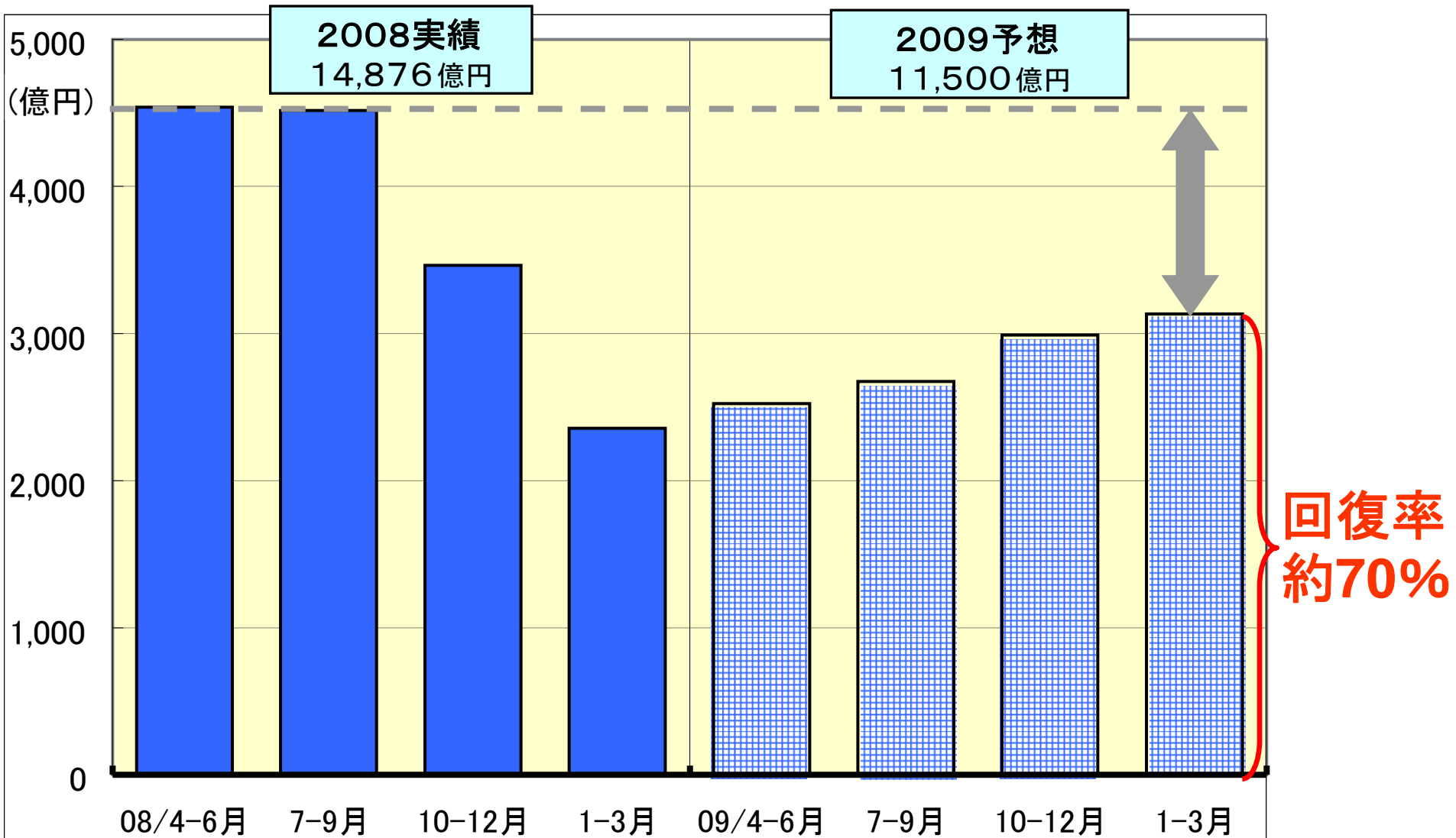
[対08年度]

(単位:億円)

セグメント	08年度 決算	09年度 予想	増減	増減内訳			
				数量差	交易条件	固定費他	内訳
機能材料	△ 160	△ 210	△ 50	△ 3	△ 104	57	△)ウレタン +)緊急対策
先端化学品	73	80	7	1	0	6	-
基礎化学品	△ 320	△ 200	120	6	42	72	緊急対策
その他	△ 48	△ 50	△ 2	0	0	△ 2	
合計	△ 455	△ 380	75	4	△ 62	133	

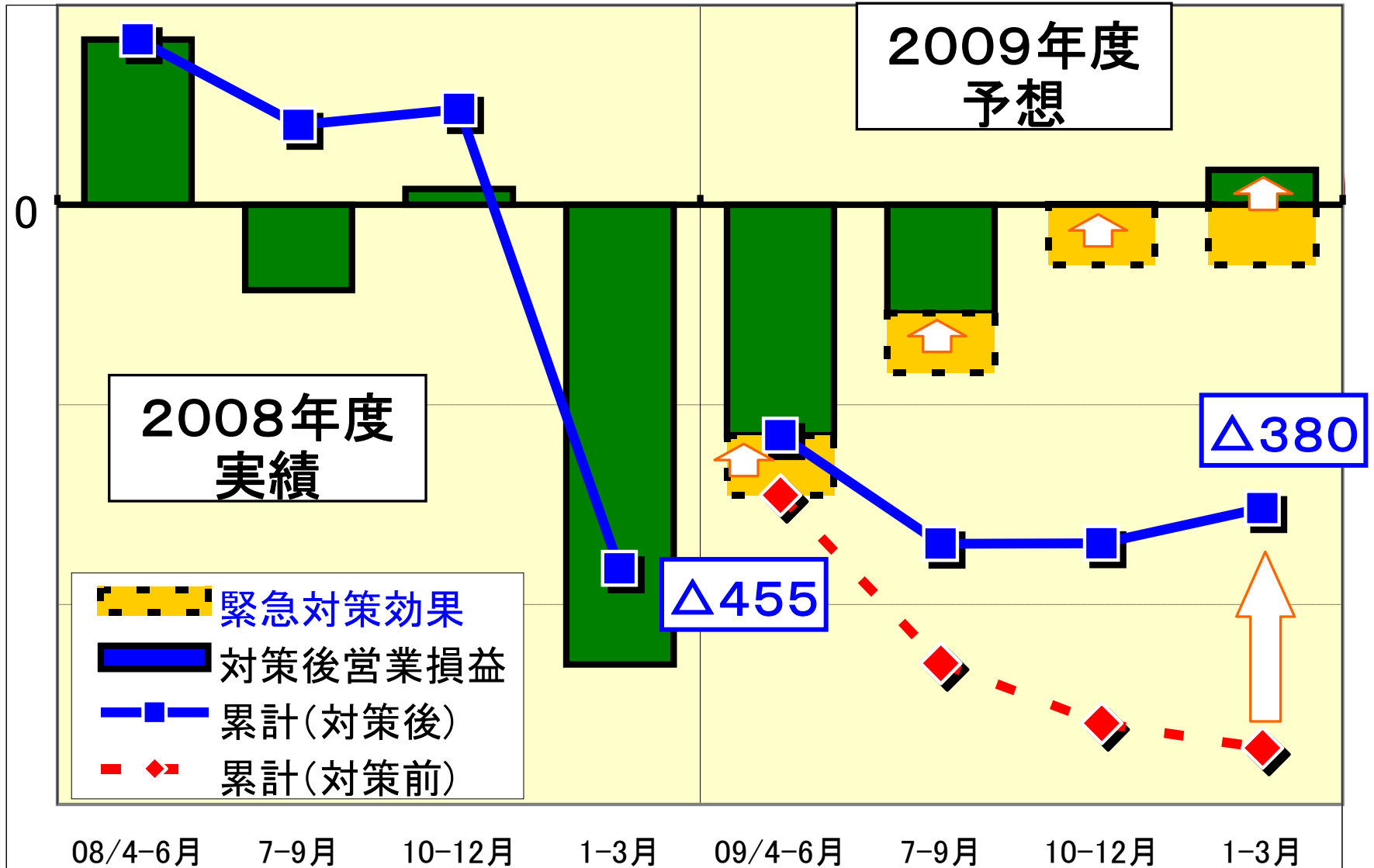
[09諸元] 国産ナフサ価格:38,000円/kl、為替:95円/\$

四半期別売上高：08実績、09予想



売上高は08年度を下回るものの、徐々に回復見込み

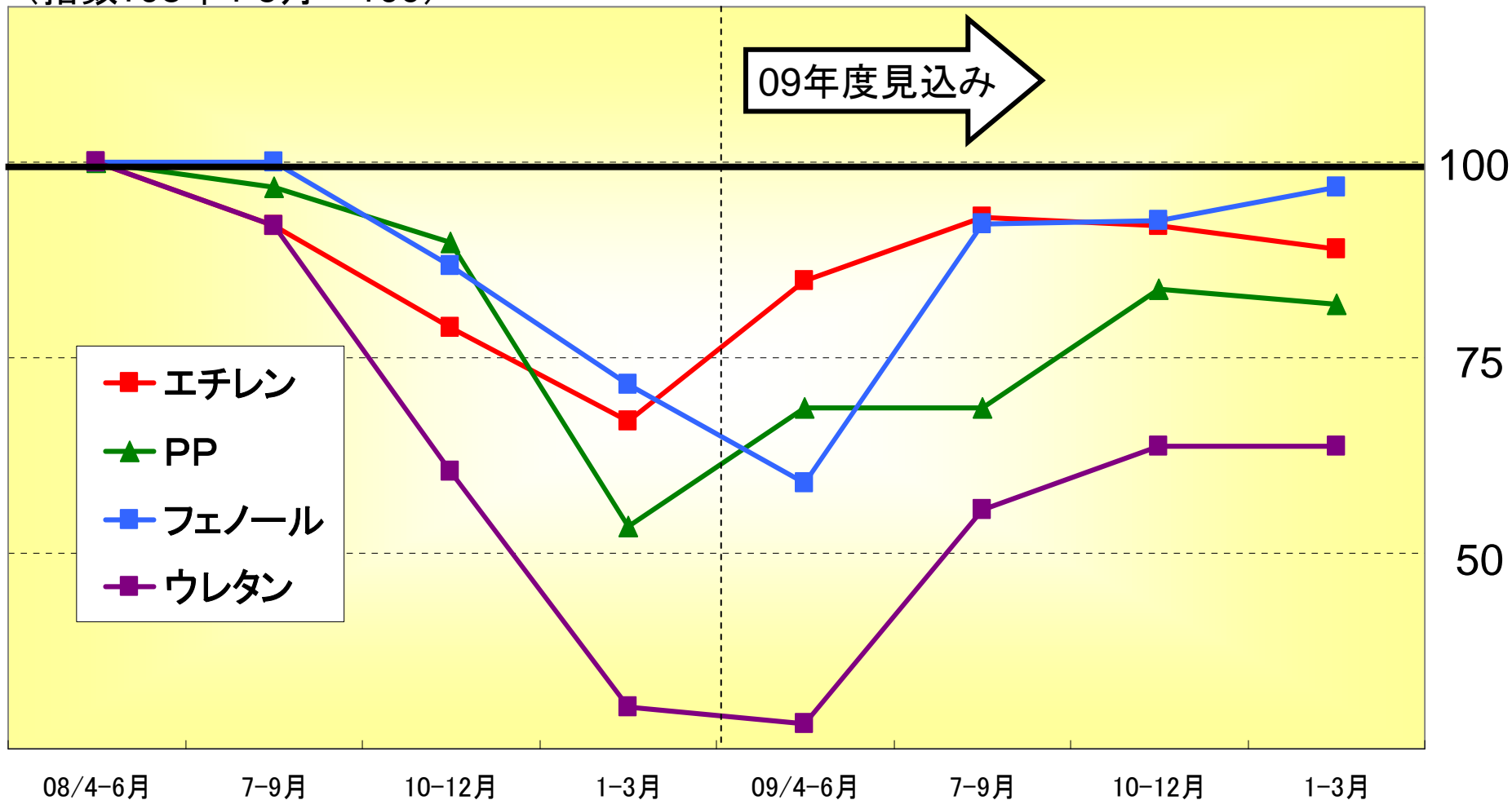
四半期別営業利益: 08実績、09予想



10年1~3月には黒字回復⇒2010年度黒字定着へ

エチレンラッカー及び主要誘導品の稼働率推移

(指数:08年4-6月=100)



基礎化学品は、10年1～3月には回復

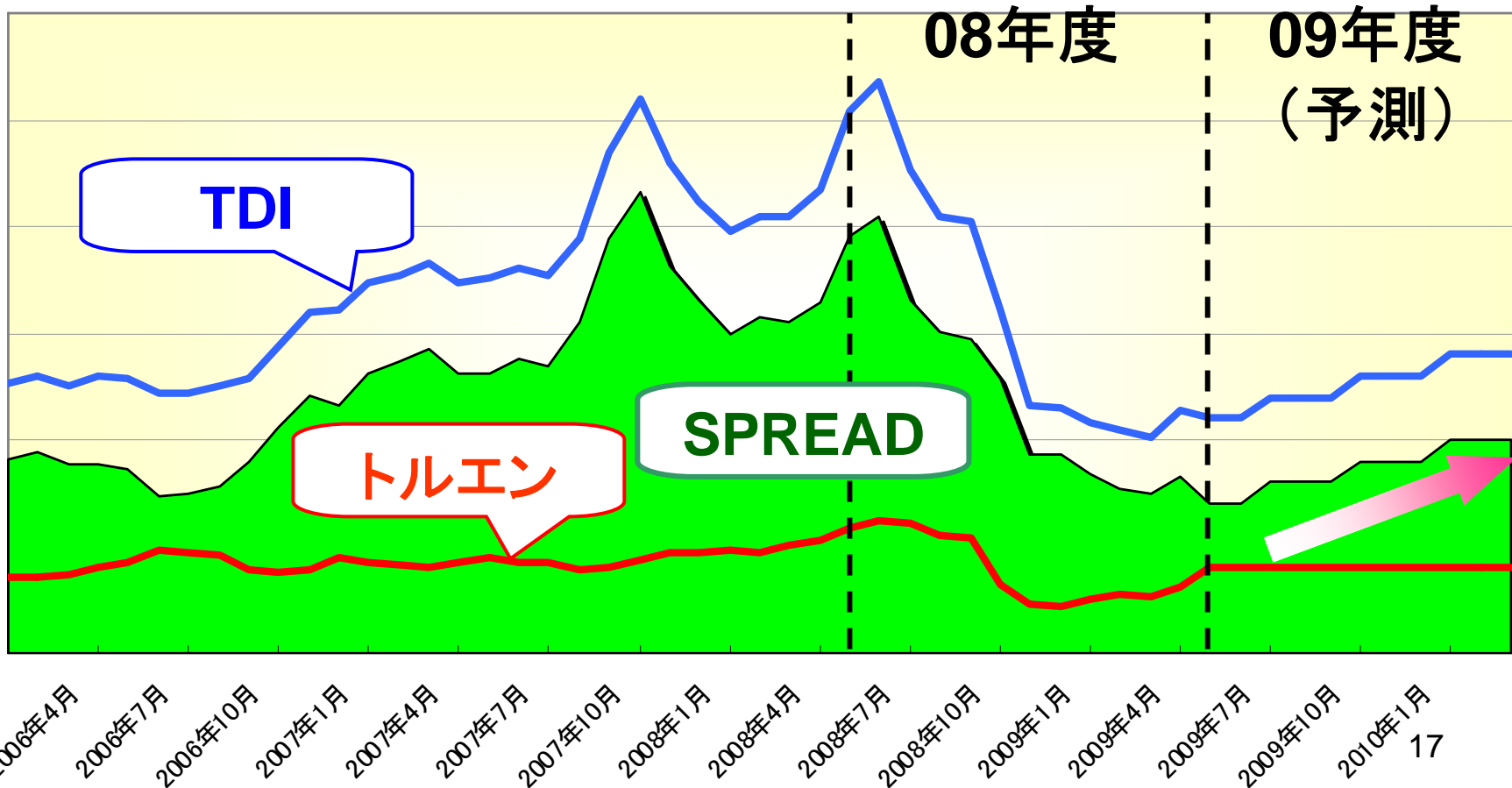
ウレタン市況推移 (TDI)

08年度:

- 急速な需要減退
- SPREADも縮小

09年度:

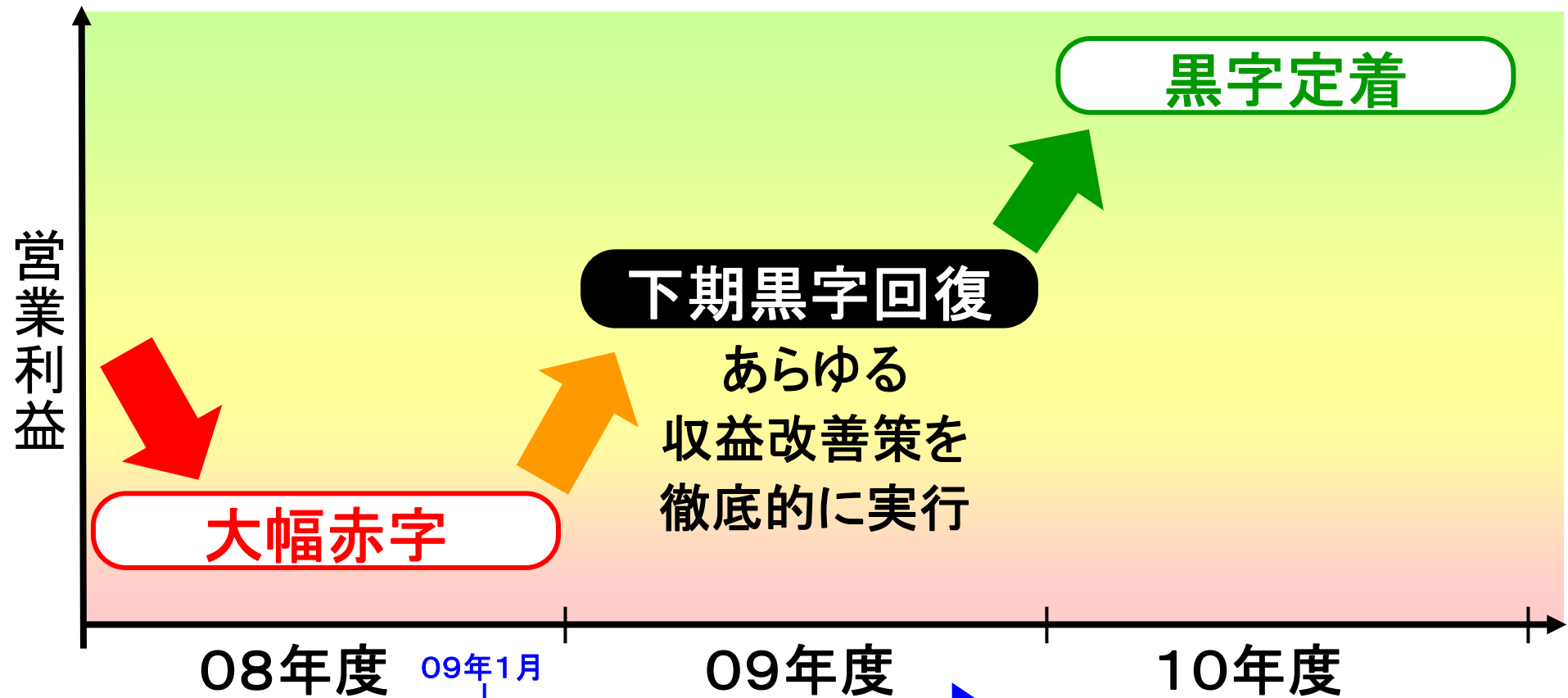
市況改善するも08年度レベル
までは回復せず



目 次

1. 外部環境（08レビュー、09予測）
2. 2008年度決算
3. 2009年度業績予想
4. 緊急対策

収益回復への道筋



- 収益構造改善(徹底的なコストダウン)
- 事業構造改革(事業戦略の見直し)

08、09年度コストダウン額

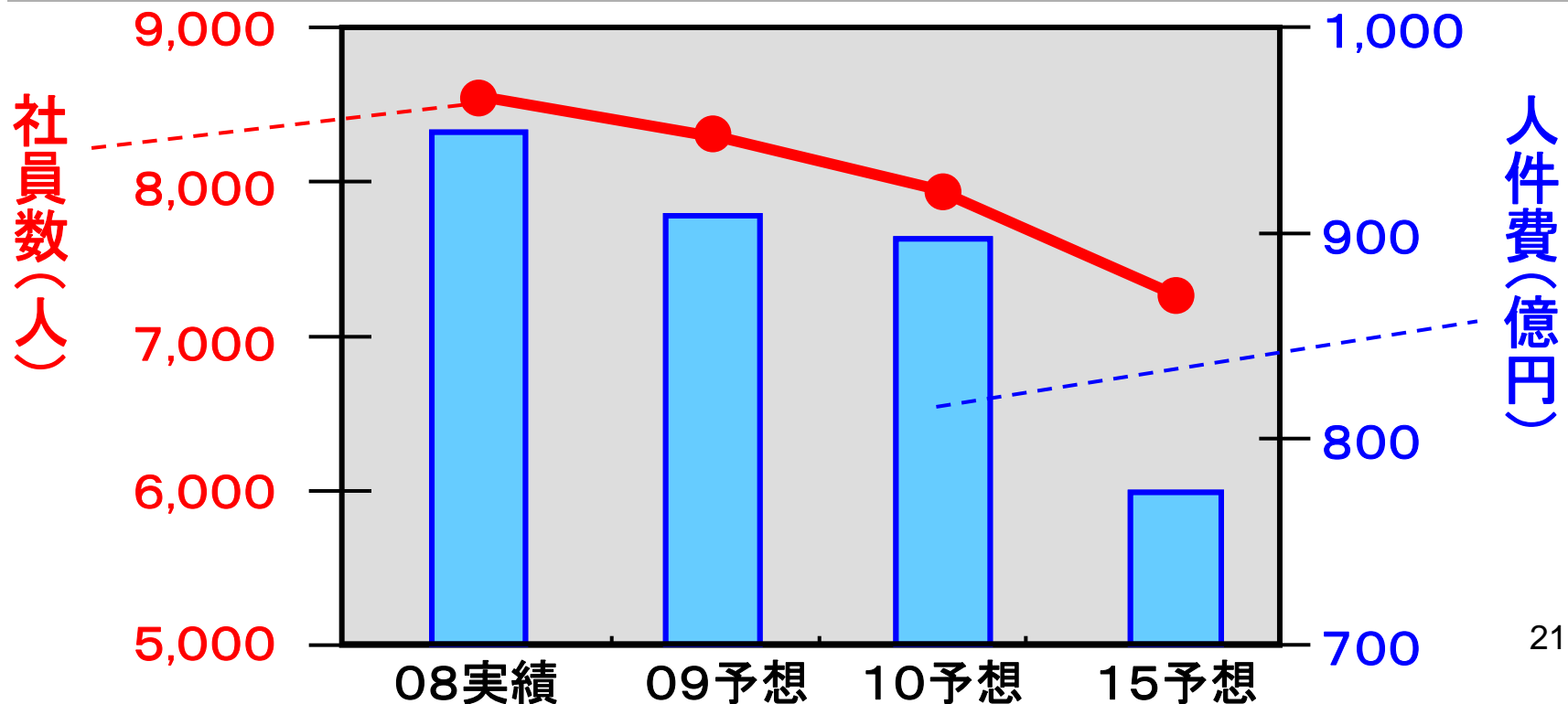
(単位:億円)

項目	08年度 (1~3月実績)	09年度 (目標)	備考
人件費	25	55	報酬等の減額 [役員:▲23~35% 管理職:平均▲10% 一般職:平均▲4%[予定]]
固定費	15	120	経費節減(▲40%) 工場固定費削減他
変動費	10	125	製造工程合理化、省エネルギー等
合計	50	300	08年度予想比

◆09年度コストダウン目標 **300億円**

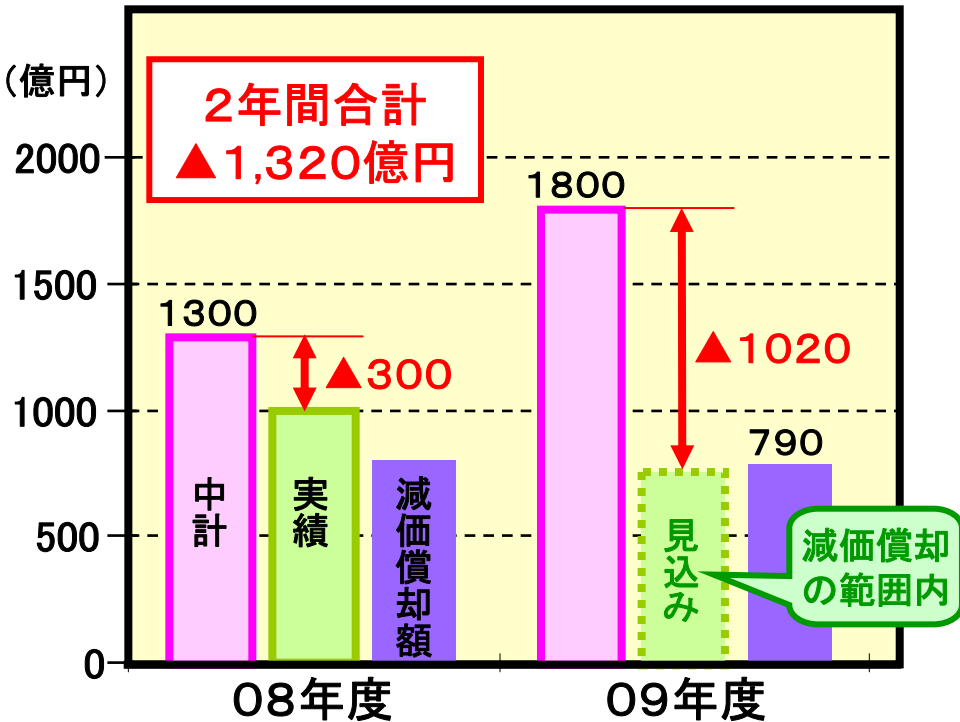
中長期的な労務コスト改善

- ◆ **社員数**は、退職者（年間約400名）と新規採用者のバランス調整により、2015年までに**1270名（対2008年比▲15%）**を削減する。
- ◆ **人件費**については、人員減と併せ、給与・賞与等労働条件の見直しを行い、2015年までに**200億円（対2008年比▲20%）**を圧縮する。

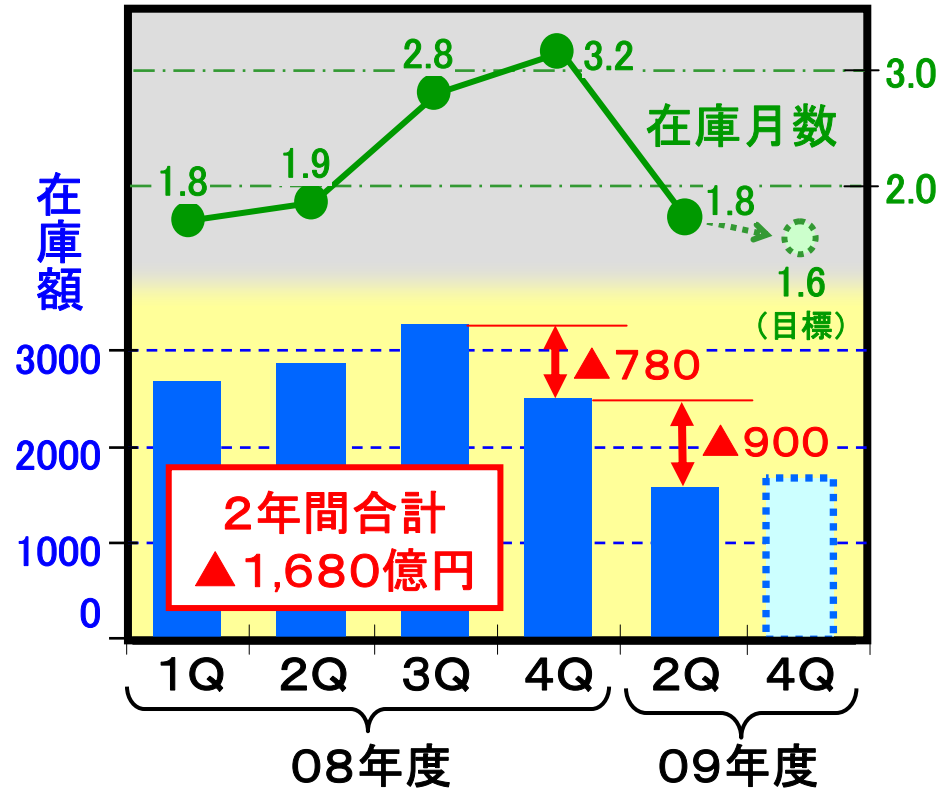


キャッシュフロー改善

①投融資額削減



②在庫額削減



緊急対策により、08年度・09年度合計で、以下の改善を行う。

①投融資削減額: ▲1,320億円(対中計 ▲43%)

②在庫削減額: ▲1,680億円(対08・3Q ▲51%)

今後の外部環境動向

- ◆世界同時不況により、グローバルに産業構造が大きく変化
- ◆日本経済は、輸出依存型の事業モデルが崩壊
- ◆中国・インド・ASEAN等の新興国は、成長余力を残す

【自動車】

- 先進国市場の低迷、中国・インド・南米は伸長
- 更なる低価格化及び軽量化・環境対応に重点

【電子・情報材料】

- 半導体・液晶等の分野は、日・韓・台・中メーカーの激戦区状態
- 業界再編や海外メーカーのシェア拡大

【生活材・産業材】

- 国内顧客は、輸出需要喪失により、競争激化
- 地産地消の拡大により、アジア市場は成長継続

事業戦略の見直しの基本方針

基本方針：国内での勝ち残り、海外（特にアジア）での事業拡大

“徹底的なコストダウン”と“マーケティング強化”による収益改善に加えて、以下の思い切った**収益力強化策**を推進する。

国内の勝ち残り策

- ① 千葉地区における出光興産との生産最適化
- ② 体質改善のための設備統廃合の推進
- ③ 景気変動の影響を受け難い事業の強化・拡大の加速
- ④ 機能フィルム・シート事業の強化・拡大

海外での事業拡大策

- ① Sinopecとの提携による中国事業拡大
- ② ベトナム・ニソン計画参加

生産最適化検討の内容と期待効果

【検討内容】

- ◆ 目的: 日本でも相対的に強い競争力を持つ両社コンビナートの更なる強化
- ◆ 検討内容:
 - ① 両社ナフサクラッカーを中心とした生産最適化
 - ② 出光・千葉製油所のリファイナリー装置も含めた生産最適化
 - ③ 両社石化誘導品の生産最適化
 - ④ 生産最適化にあたっては、有限責任事業組合(LLP)制度の活用を検討

【検討スケジュール】

- ◆ 半年～1年程度の期間で詳細検討を進め、両社が合意した段階において、LLP設立等により最適体制を発足

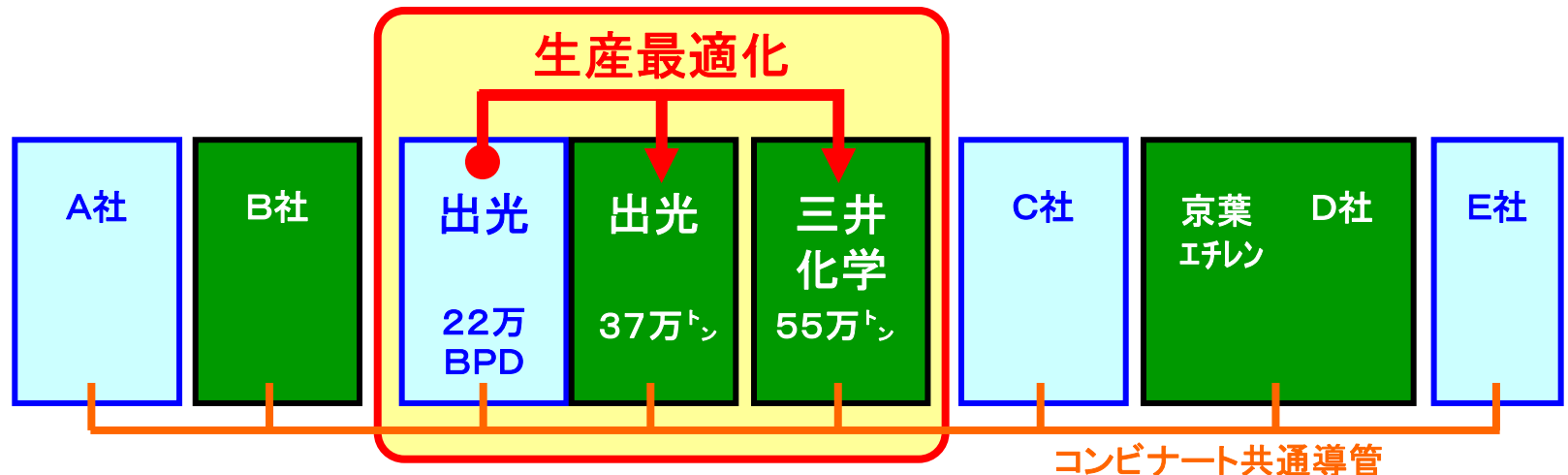
【期待効果】

- ① ナフサクラッカーを中心とした最適生産体制の構築、精製・石化のインテグレーションによる国内トップクラスの競争力の実現
- ② 石化誘導品でのリファイナリー留分の更なる有効活用等による競争力強化

日本最強のコンビナートの形成

千葉地区コンビナート

- 4つの **製油所** で83万バレルの製油能力保有（国内の2割に相当）
- 5つの **エチレンセンター** で、計247万トンのエチレン生産（国内の3割に相当）



三井・出光の生産最適化により、

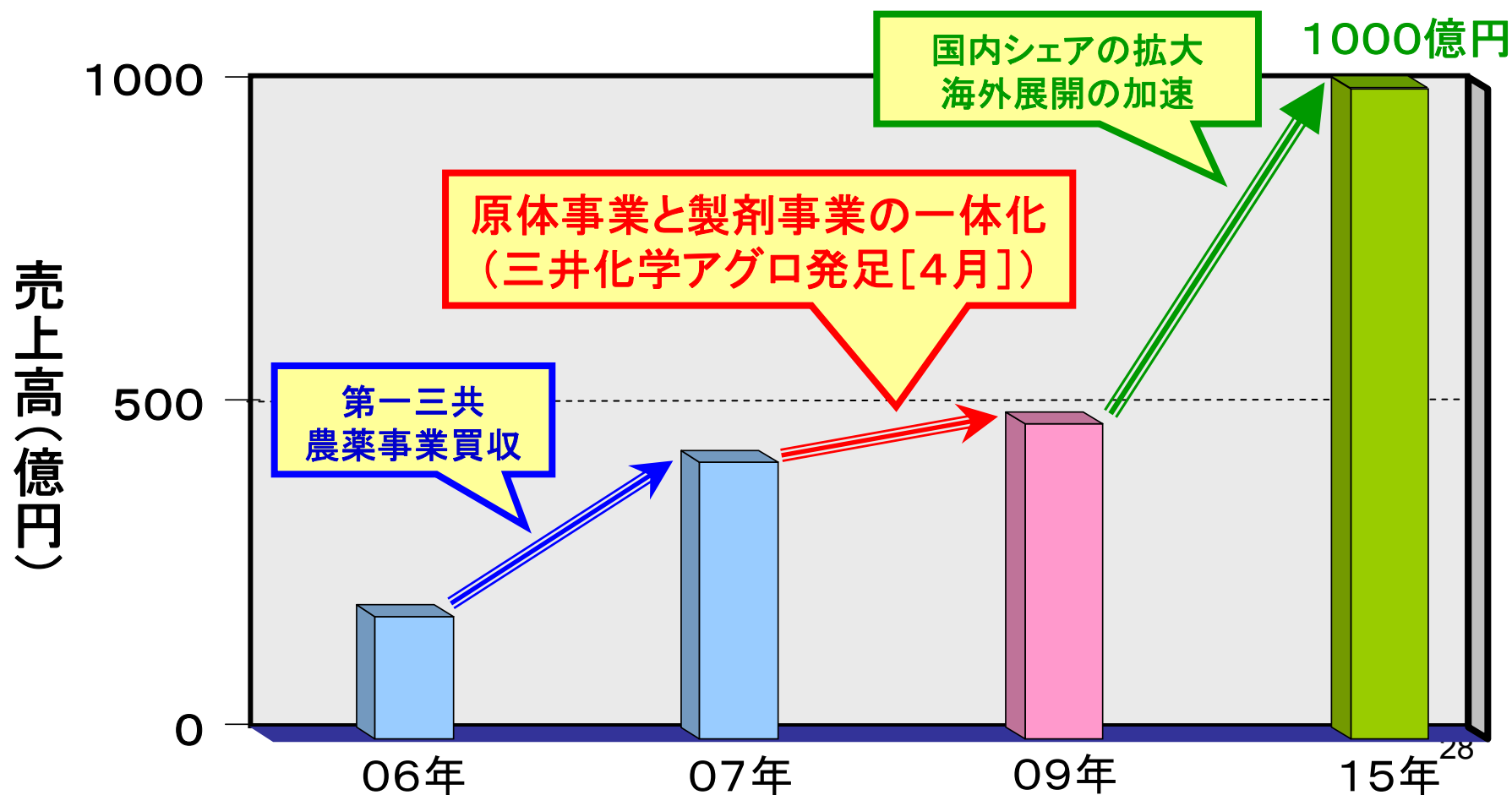
- ◆ 合計能力100万ト、売上規模2,000億円の競争力のあるナフサクラッカーの一体的体制構築
- ◆ 「クラッカーを中心にした石油精製～石化誘導品の生産最適化」という国内初のビジネスモデルにより、国内最強の競争力が実現

体質改善のための設備統廃合の推進

基本方針	体質改善例	統廃合プラント例(停止年)
ポートフォリオの入替	ヘキセン-1新設(11年)	市原・エチレングリコール(09年)
	低収益事業整理	大阪・ポリスチレン(09年)
競争力あるプラントへの集中化	PTA最新プラントへ生産集約	岩国・第2PTAプラント(09年)
	EPT最新プラントで生産集約	市原・第2EPTプラント(検討中)
	PP生産能力縮小	2プラント程度(検討中)
海外展開拡大	中国BPA稼動開始	名古屋・ビスフェノールA(09年)

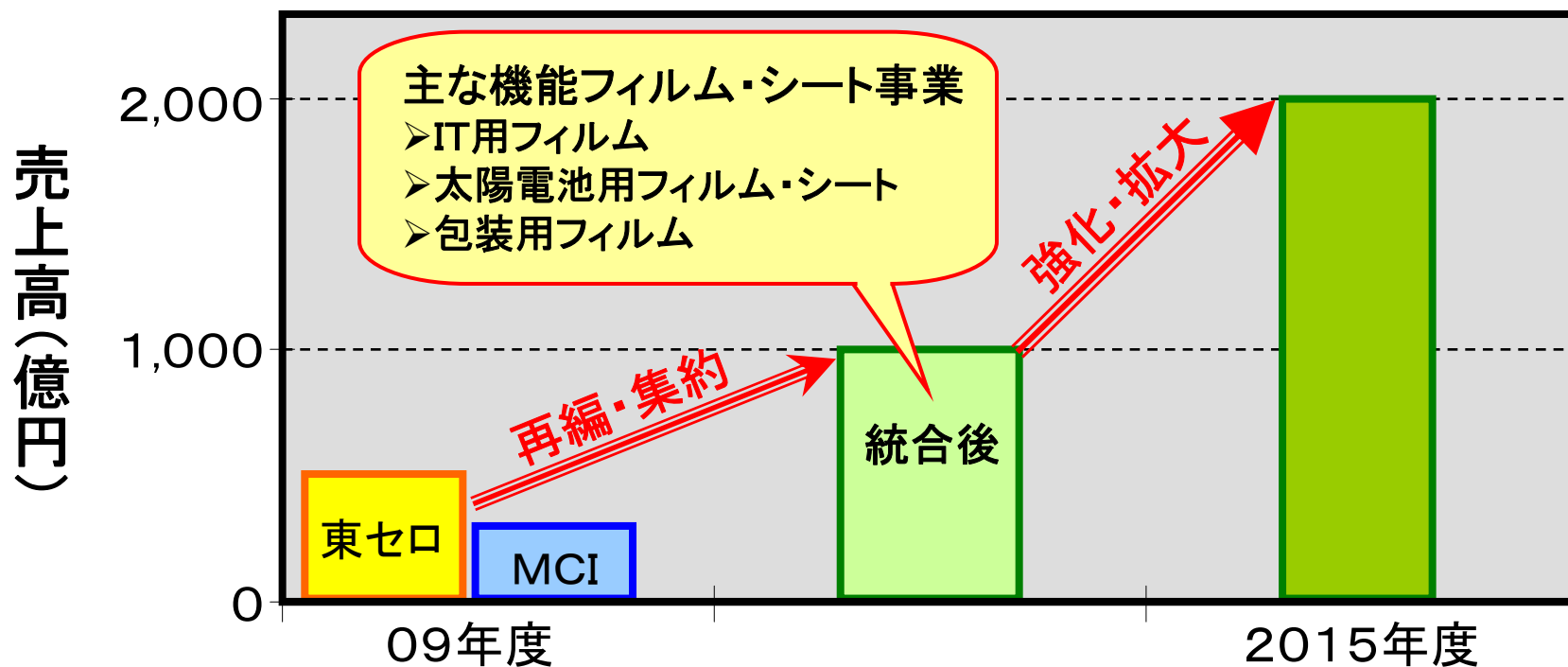
景気変動の影響を受け難い事業の強化・拡大

◆ 農業化学品事業の早期規模拡大



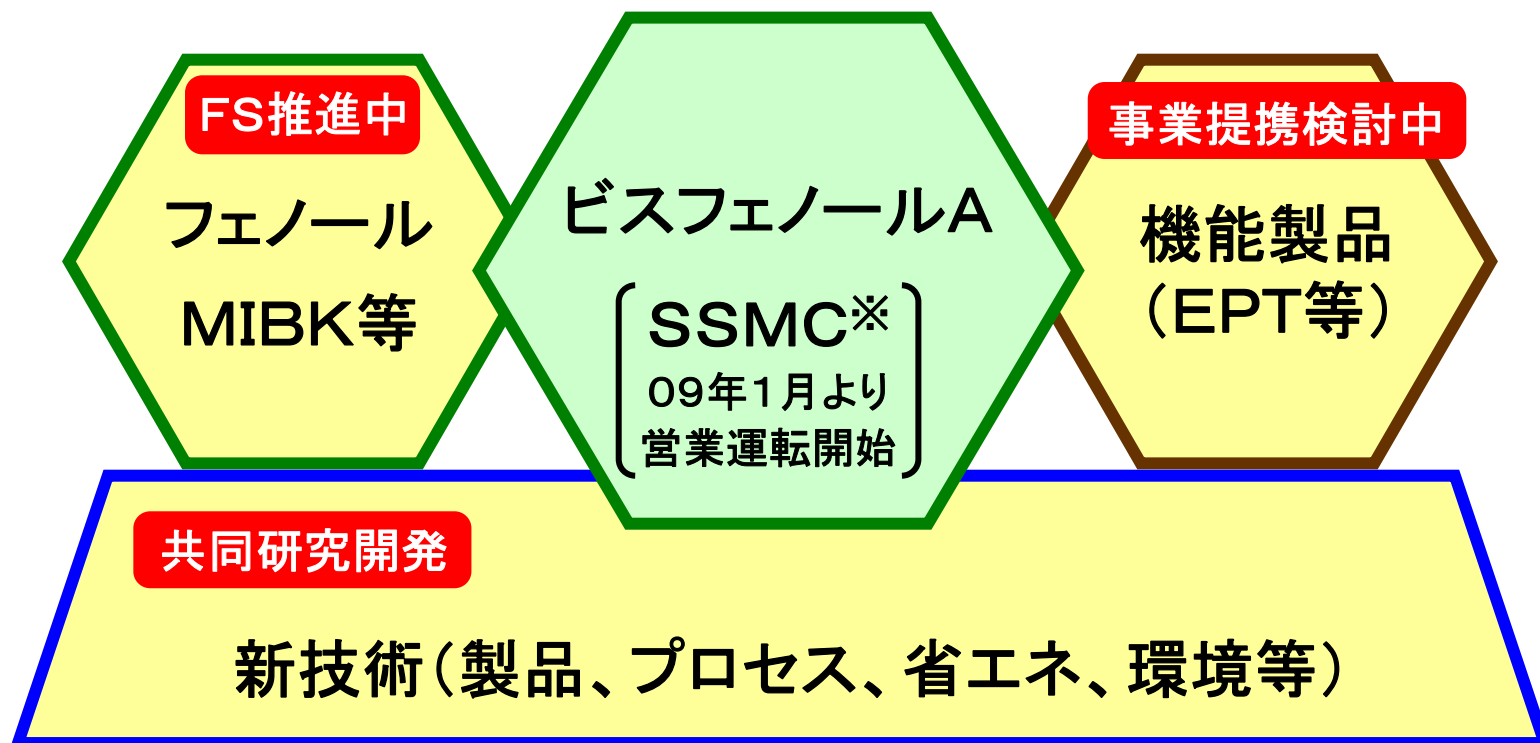
機能フィルム事業の強化・拡大

- ◆ 第一ステップとして、東セロを核とする機能フィルム・シート事業を再編・集約



Sinopecとの包括的な提携推進

◆成長する中国市場への拡大戦略

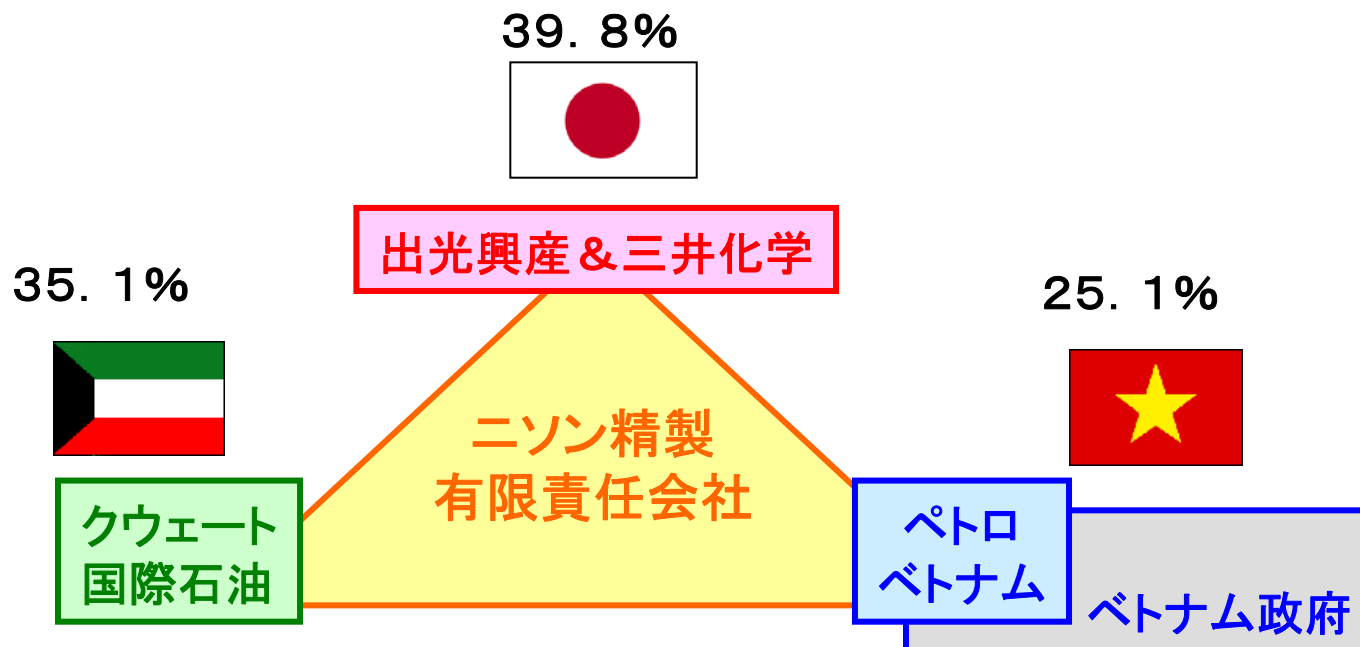


※SSMC:上海中石化三井化工有限公司(三井化学[50%]とSinopec[50%]の合併会社)

ベトナム・ニソン計画(第2製油所)の概要

産油国・新興国との連携、日本勢主導による

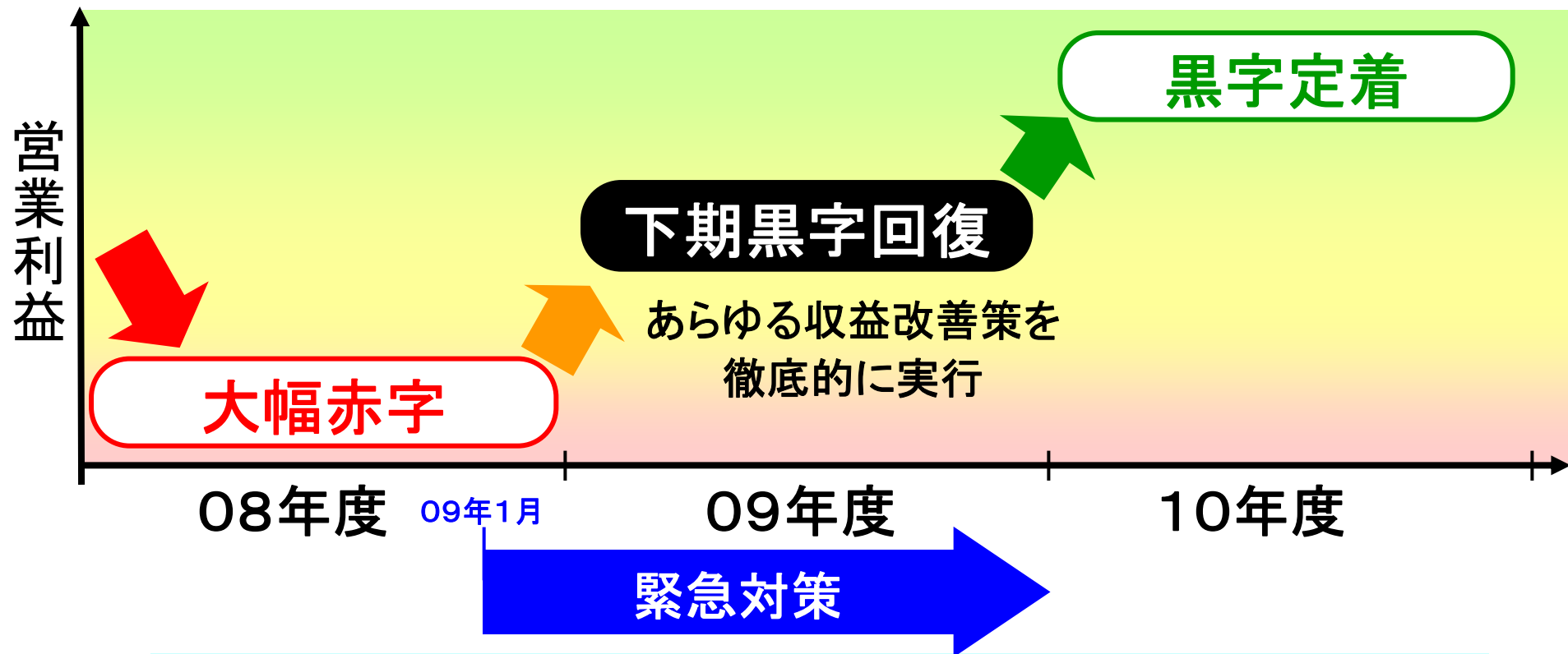
「リファイナリー」の構築



■精製能力:20万バレル/日(ベトナム北部・ニソン地区)

■現 状:FS実施中(⇒09年度末に意思決定予定)

緊急対策のまとめ



➤ 収益構造改善(徹底的なコストダウン)

300億円のコストダウンの確実な実行

➤ 事業構造改革(事業戦略の見直し)

国内での勝ち残り、海外(特にアジア)での事業拡大



Mitsui Chemicals

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。
従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

(完)